

第1回 ていれぎ学級が開催されました 中編

6月17日、養護教諭の坪井先生より「これからの季節に注意したいこどもの健康」と題し、熱中症と感染症について講演していただきました。

中編では、その講演の中から、学校における熱中症対策の取り組みをピックアップします。(ホームページ掲載にあたり、坪井先生のご協力により、講演内容を増補しています。)

●学校の熱中症対策

✓ 今年度から大型製氷機を設置

製氷機の氷は、中程度以上の熱中症のような、素早く全身を冷やす必要があるときに使用。

ちなみに保険室内あるいは教室でのちょっとしたクールダウンには、扱いやすい、冷凍庫の保冷剤を使用。



✓ 定期的に暑さ指数(WBGT)を測定



WBGT を測定する装置を、グラウンドの終日陽光が当たる場所、体育館、プールに設置。8・10・12時に保健室がチェックするほか、体育や校外活動を行う先生方が授業前に都度、チェック。

数値が高い場合、屋外での活動を中止。子どもたちに、外へ出ないように放送で注意喚起。

保健室前の、風通しのよい場所には、熱中症注意目安も表示される温湿度計を設置。傍らに、WBGT レベルごとの対策の目安表を掲示。



✓ 活動前後の水分補給を指導



水道管直結給水方式の水飲み場「のめるん」

登校後および下校前、体育や校外活動などの開始前と終了後に、水分補給を指導。

持参した水筒を飲み切ってしまった場合、「のめるん」の水を飲用するよう指導。

※学校の蛇口から出る水は、タンクに一旦貯水したものであるため飲用には不適。

「のめるん」は水道管から直結給水しているため、飲用可能。

✓ 重症なら迷わず救急車

「あのおとき救急車を要請しておけば助かったのに！」という事態を防ぐために、重症ならすぐに救急車を呼ぶことにしている。

中編は以上です。(後編に続きます。)